

血液透析患者の高リン酸血症に 対するクエン酸第二鉄の有用性

クレア焼山クリニック

○桐林 慶(キリバヤシケイ)、永谷美子、藤井恵子

はじめに

2014年5月、新規リン吸着薬としてクエン酸第二鉄水和物(以下、FCH: Ferric Citrate Hydrate)が処方可能となったが、カルシウム非含有、高吸着能という特性に期待される一方で、鉄代謝への影響が懸念される。

目的

高リン酸血症に対するFCH
の治療効果および貧血治療、
鉄代謝への影響について検
討する。

対 象

既存のリン吸着薬を内服してなお週初めの血清リン値が6.0mg/dLを超えている維持透析患者14名。

明らかな鉄過剰(フェリチン >300 ng/mL)を認める症例、消化管出血および悪性疾患、一年以内に輸血の既往がある症例は除外した。

対象の詳細

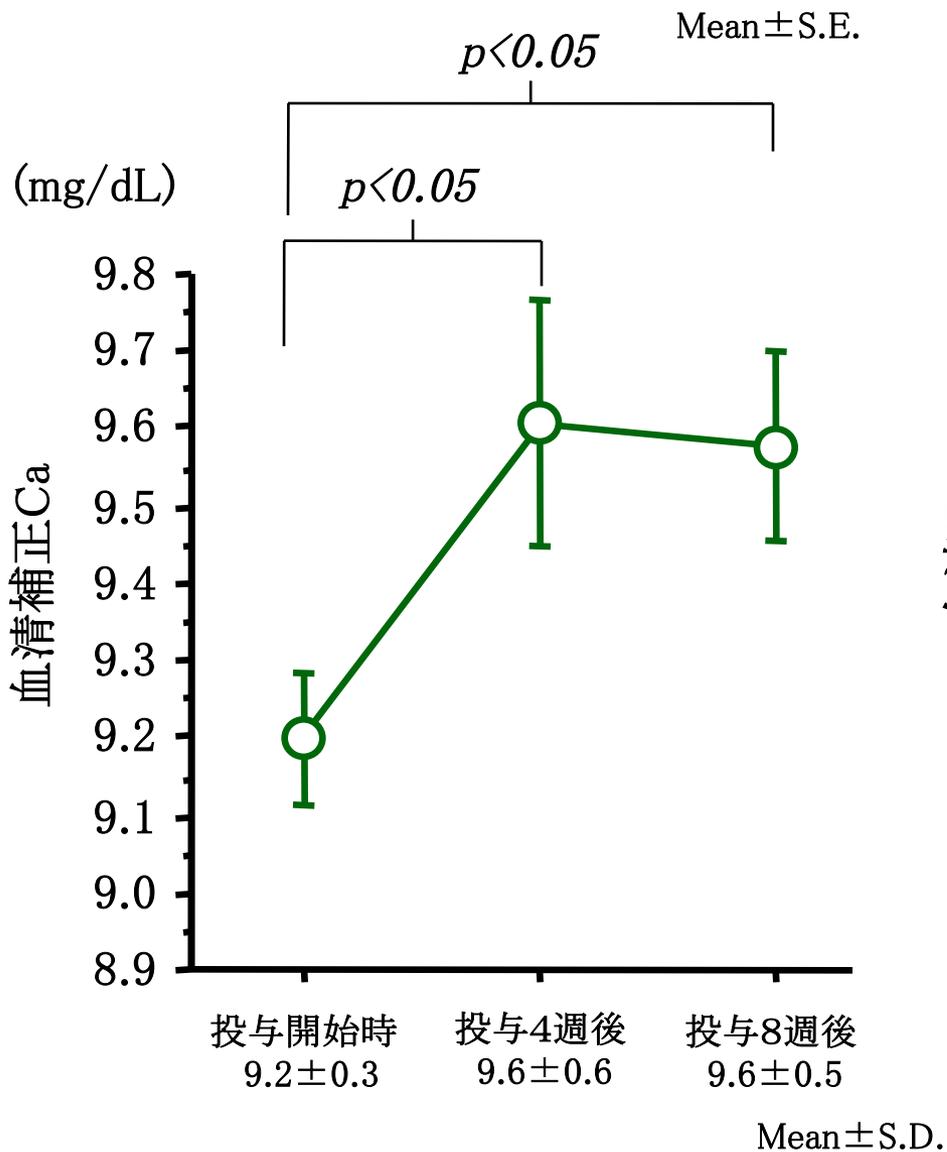
男/女(人)	:9/5
年齢(才)	:67.3±9.1
透析期間(年)	:8.4±6.0
BMI(kg/m ²)	:22.4±3.2
iP(mg/dL)	:6.6±0.3
Hb(g/dL)	:10.6±0.6
Ferritin(ng/mL)	:85.9±67.6

(Mean±S.D.)

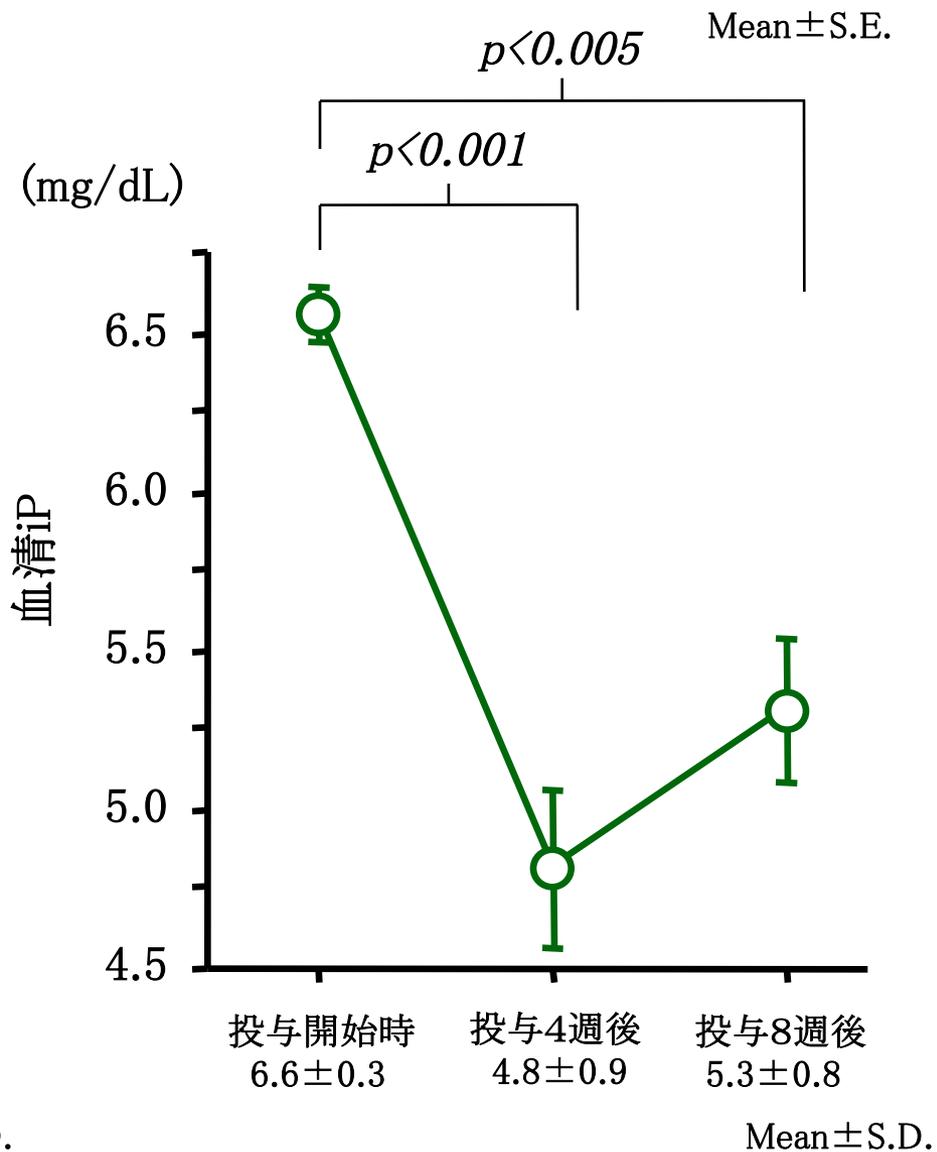
方 法

FCH 750mg/dayを内服開始し、開始前、4週後、8週間後における臨床データ(ドライウエイト、補正Ca、iP、Hb、Fe、TIBC、Ferritin、TSAT)、およびESA (Erythropoiesis Stimulating Agents)使用量/週、ERI(Eythropoietic Resistance Index:ESA使用量/週をHb値とドライウエイトで除したもの)について比較検討した。なお、統計処理はWilcoxonの符号順位検定を用いた。

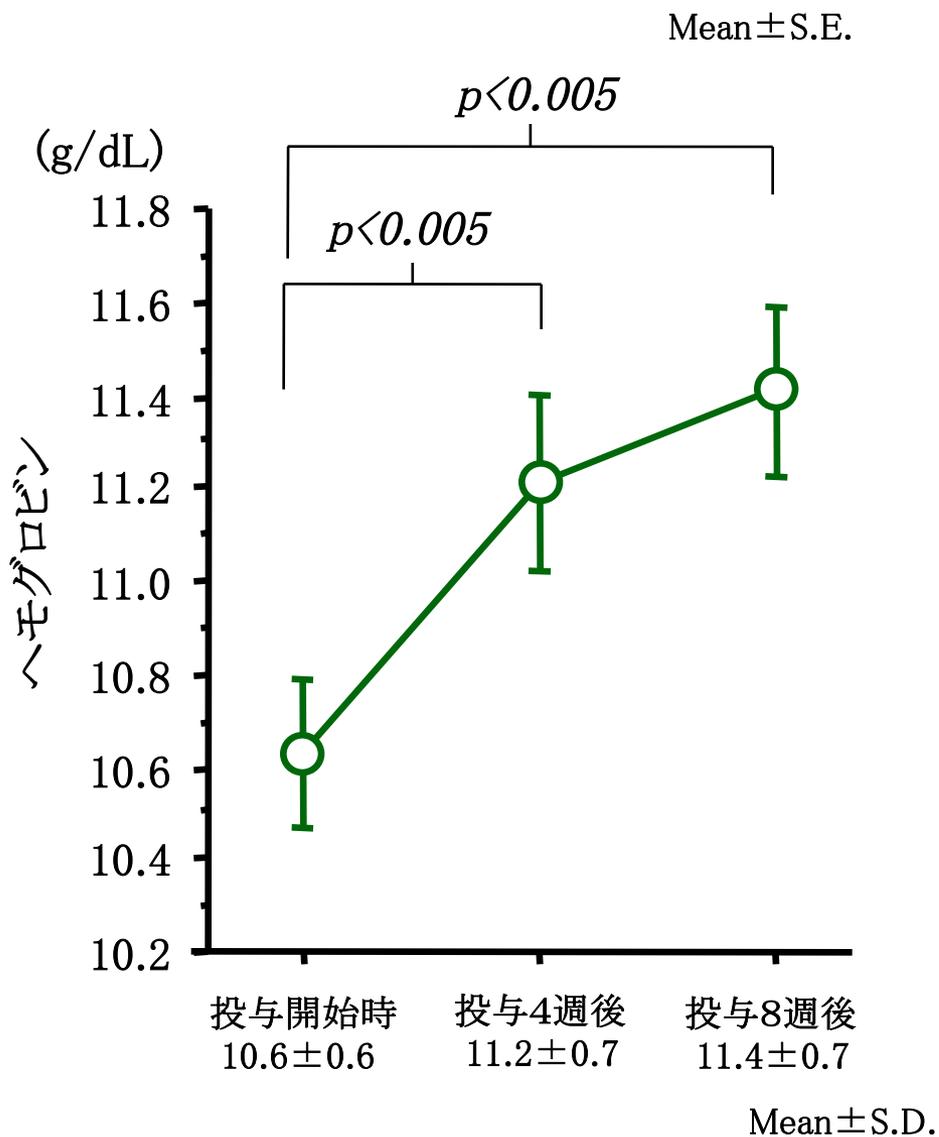
血清補正Ca



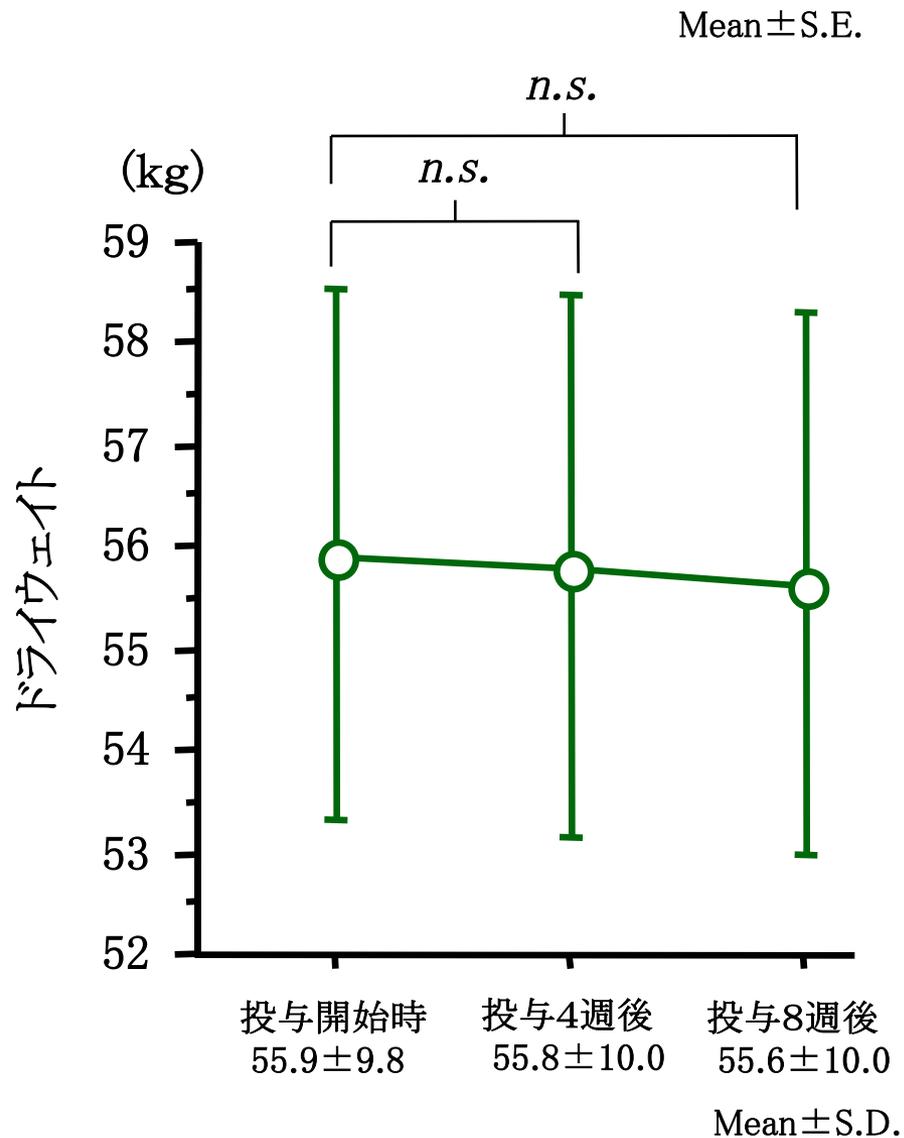
血清iP



ヘモグロビン



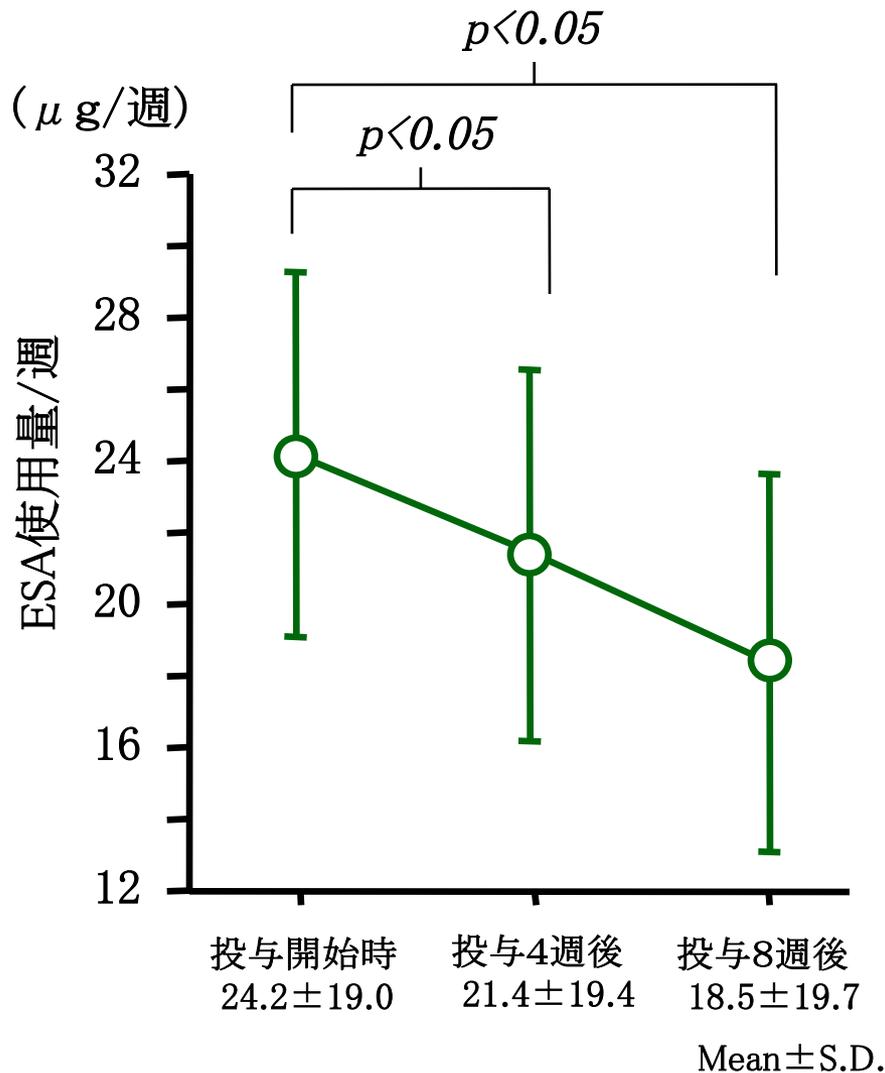
ドライウエイト



ESA使用量/週

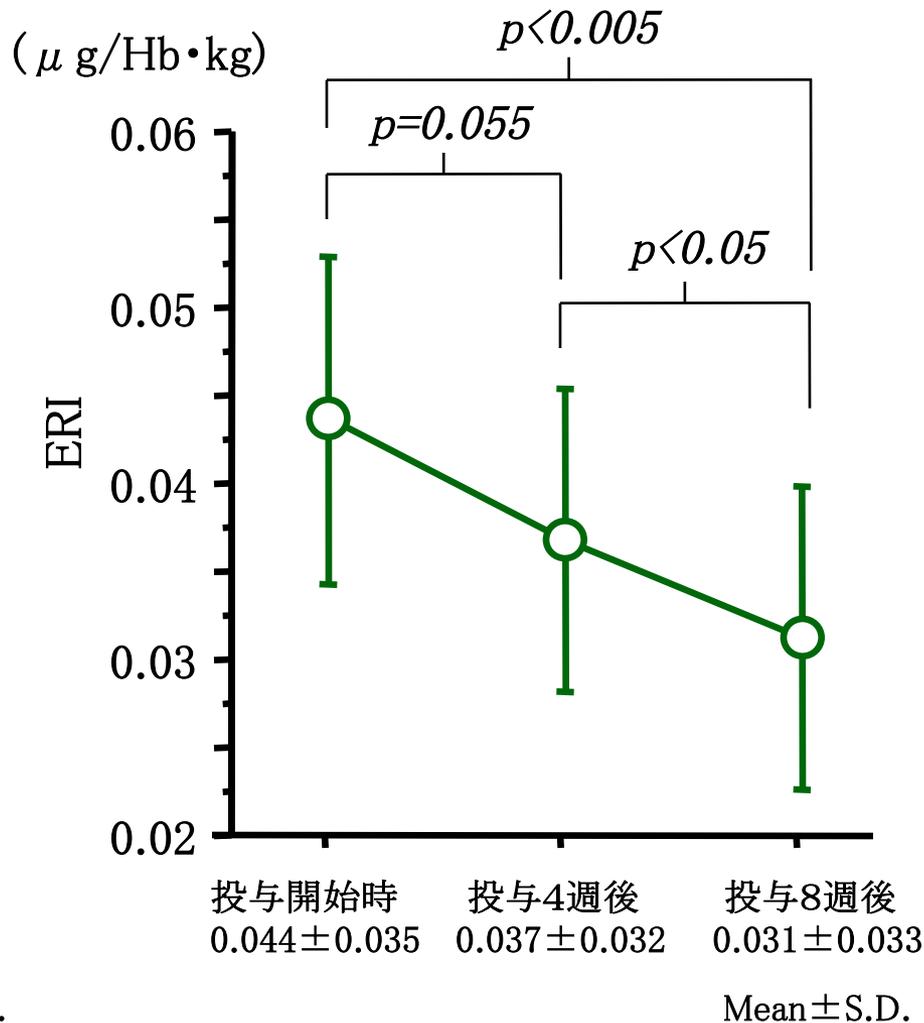
(ダルベポエチン換算)

Mean ± S.E.



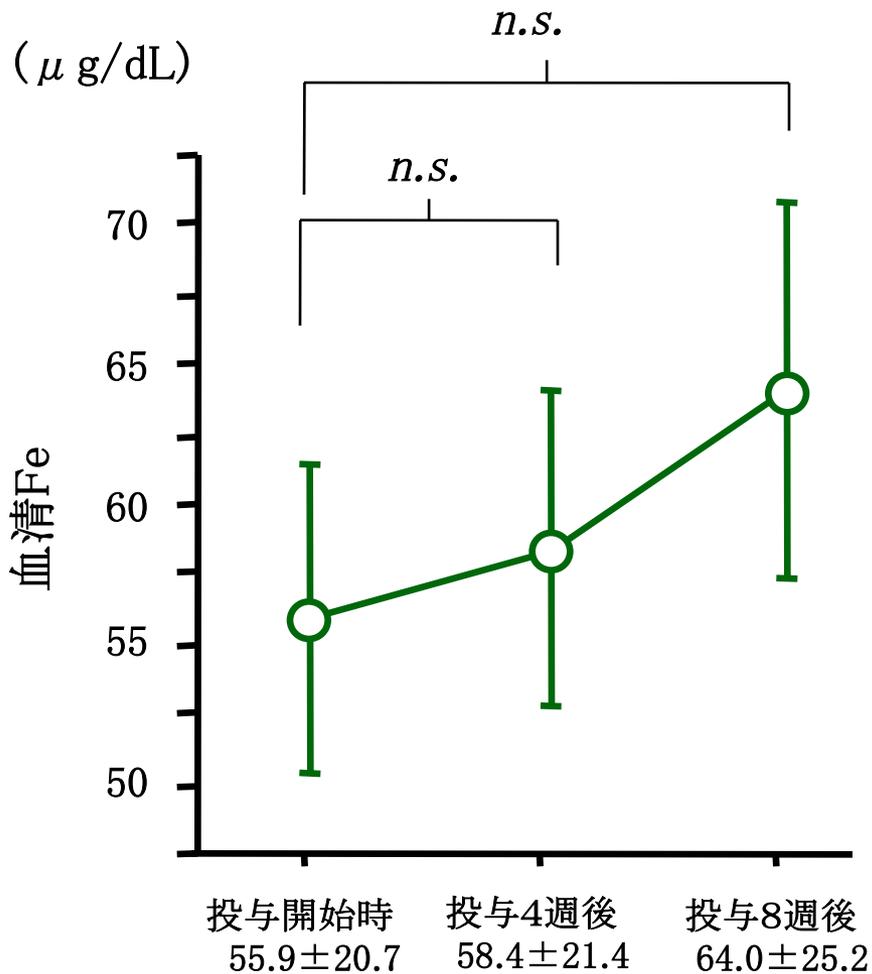
Erythropoietic Resistance Index

Mean ± S.E.



血清Fe

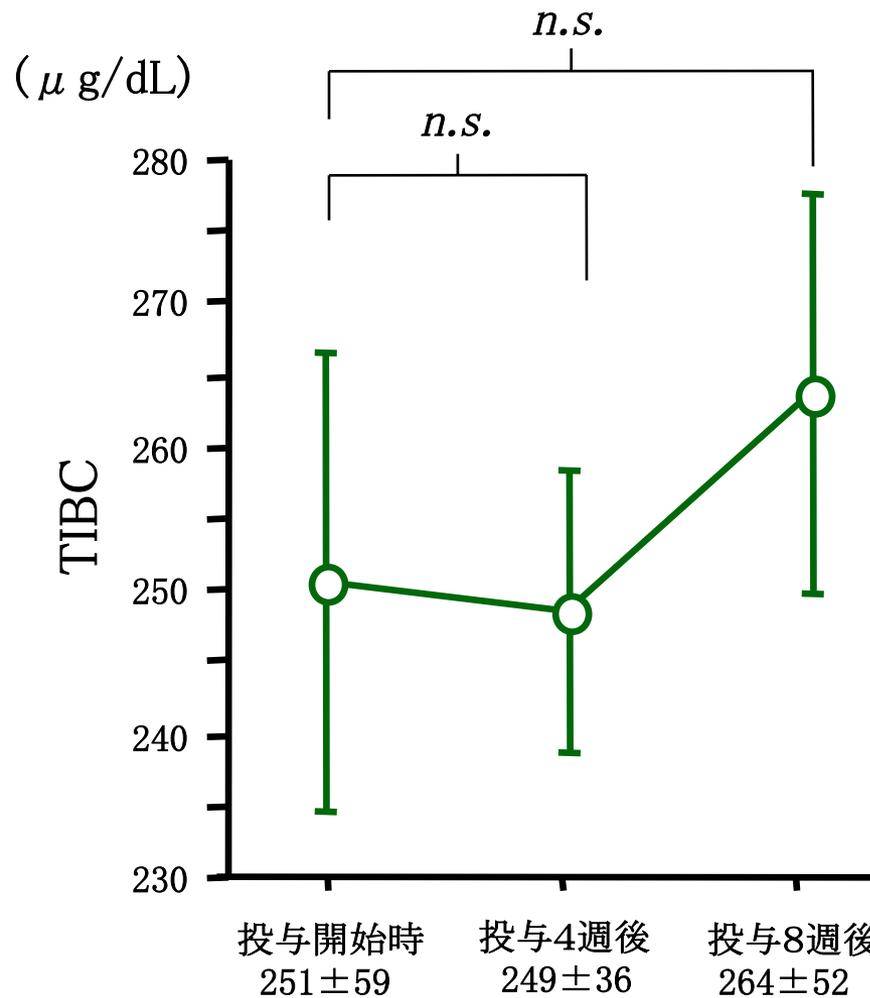
Mean ± S.E.



Mean ± S.D.

TIBC

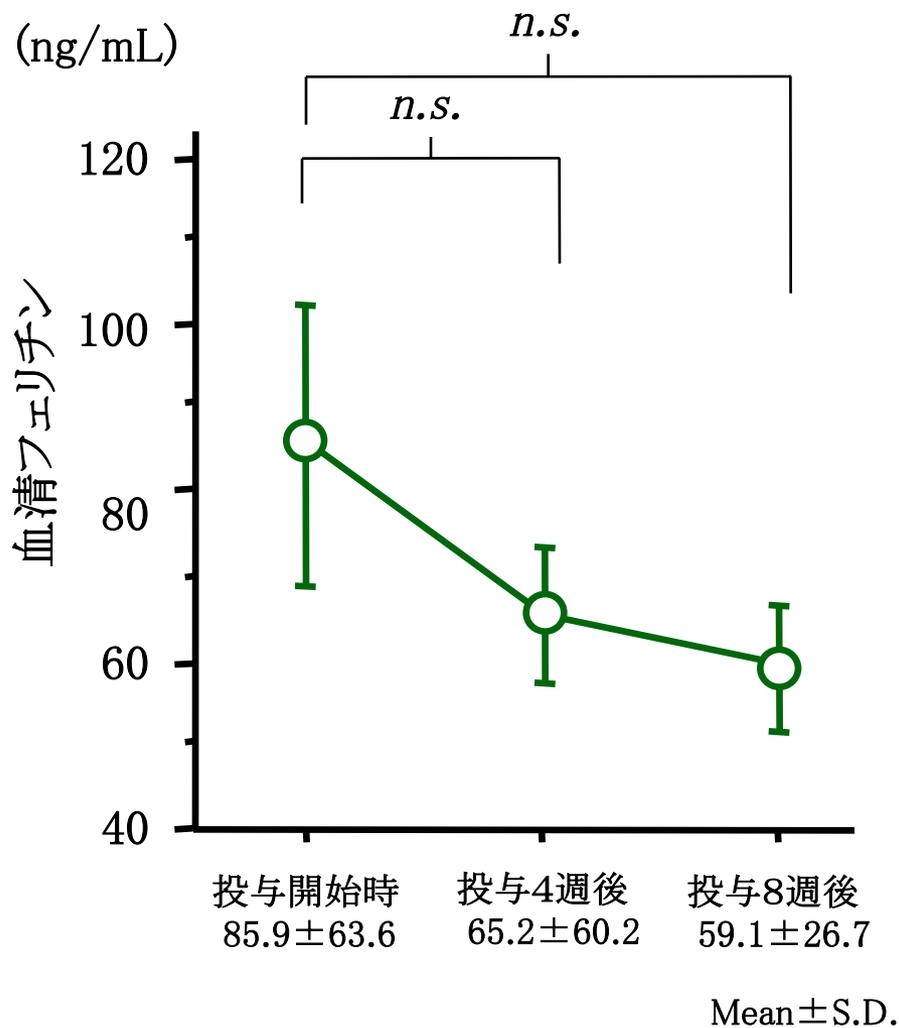
Mean ± S.E.



Mean ± S.D.

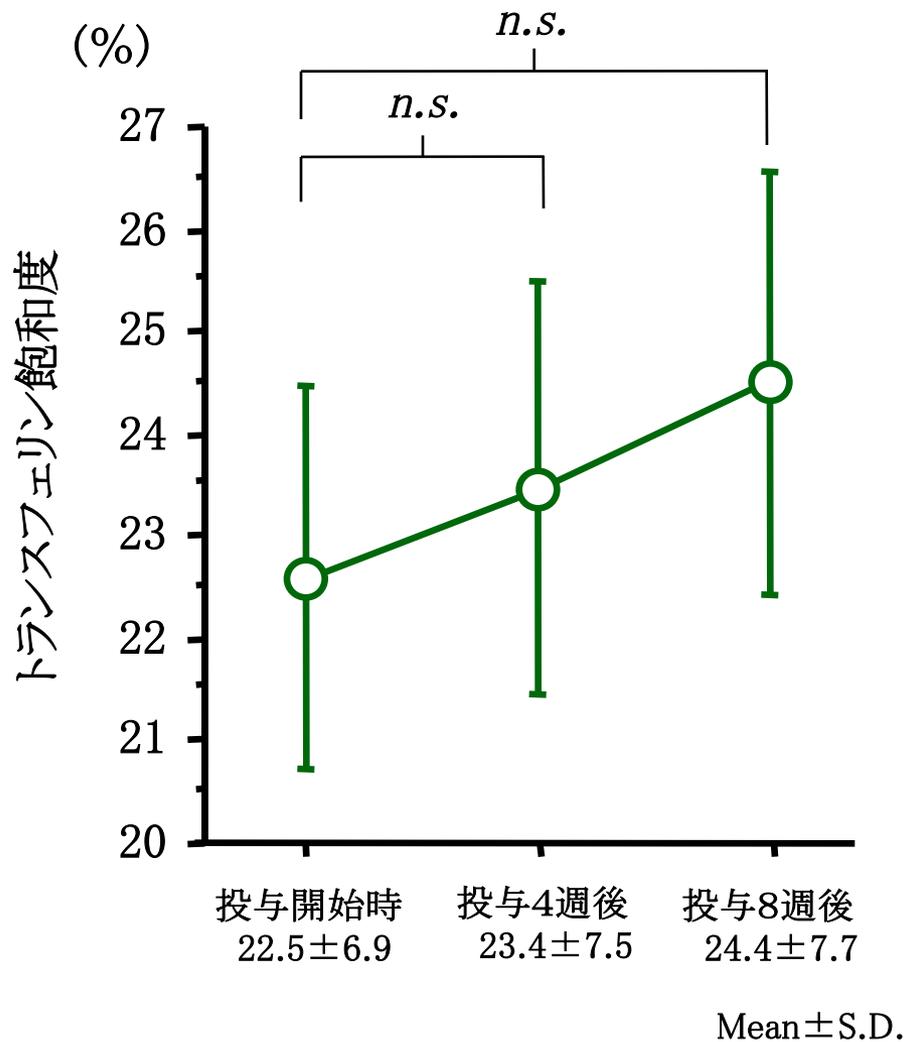
血清フェリチン

Mean ± S.E.



トランスフェリン飽和度

Mean ± S.E.



結果のまとめ

FCH(750mgday)内服開始の後、4週～8週の経過において下記の結果が得られた。

- 1) 有意なiPの低下、Ca上昇が認められた。
- 2) 有意なHbの上昇が認められた。
- 3) 有意なESA使用量の低下、ERI改善が認められた。
- 4) Fe、TIBC、フェリチン、トランスフェリン飽和度に有意な変化は認めなかった。
- 5) ドライウェイトに有意な変化は認めなかった。

考 察

FCH(750mg/day)の内服は、鉄過剰を来たすことなく、高リン酸血症に対して効果を示した。

FCHは、症例の選択によってはESA抵抗性改善の側面から貧血治療にも貢献する薬剤である可能性が示唆された。

中国腎不全研究会 CO 開示

筆頭発表者名：桐林 慶

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。